

Leader's TOPICS

自然観察の大切さ ～浜口哲一先生が残した言葉～

自然環境部会（NPO 法人 全国森林インストラクター神奈川会・理事） 水産学博士 品川高儀



自然環境部会に参加して2年が経過しましたが、身近な自然から学ぶ体験を環境学習に取り入れていただきたいと考えています。そこで、「浜口哲一先生が残した言葉」から考え方を紹介したいと思います。浜口先生には、平塚市博物館の他に沢山の活動フィールドがあり、私はその晩年のごく一部しか一緒にできませんでした。特に最後に述べる「トコロジスト」の説明に情熱を注がれたものでした。

さて、先生は「なぜ観察会を開催して大勢の人を自然の中につれていこうとするのか」について、

1. 自然保護について意見を同じくする仲間を作る。

（価値観の共有をすること）

2. 自然について科学的に理解をする。

（本物に触れて理解する）

3. 自然には人を育ててくれる力がある。

の三つの理由があり、特に人を育ててくれる内容には、①体を鍛える、②五感を研ぎ澄ます、③感性を豊かにする、④好奇心を刺激する、の四つがあり、身体の部分に注目して「しなやかな体」を作るという意味で捉えています。

観察会で触って初めて判るものがあるだろうし、豆が弾けるようなかすかな音を探す、また隠れているものを見つけ出す、微妙な味を経験するなど、自然の事物は五感に多様に反応すること、多様な事物で繊細な五感が養われるということです。外界から刺激を受けるのは全部五感であり、五感が生き活きして、活発な心と体の活動の源になると思います。私たちの役割は、人を育ててく

れる総合的な力を持つ自然の中にみんなを連れて行って、自然の力にゆだねることがとても大事なことだと思います。

別の視点では、自然観察の方法は学校の教科と結びつけて説明しています。自然観察が理科学的な観点で発展すれば自然科学

的研究になっていきますし、社会的な観点と結びつくと、環境問題の格好の入口になります。

先生は、地域への愛着の意味から「トコロジスト」を目指そうと提言しています。「トコロジスト」の意味は、「ある場所の専門家」ということです。観察会には鳥の専門家、虫の専門家が沢山いますが、ある場所について歴史や文化も含めて幅広く捉え、身近な自然の専門家を目指そうとするものです。このような専門家にも「トコロジスト」という名前を付けています。この名前は辞書にはありませんが、あちこちで「トコロジスト」になろうという方が増えていることは確かです。浜口哲一先生の精神はこれからも浸透していくことを願っています。



自然観察での故・浜口哲一先生